



特別
千12
3643
101



清
溪

清 玉 浮 楊
絲 為 船 貴 地

清經

故
梅若誠太郎氏
昭和五年十月七日
梅若重彦氏
寄贈
早稲田大学図書印

以牙三段



ヒヤヒ ^果 三比ニウ ヲケルヲ 扱切 上略

三比ニウ ヲケルヲ 扱切 中略

三比ニウ ヲケルヲ 扱切 下略

扱切 治田 八重子

治田 八重子 九子 一子 一子 一子 一子

早刺

三比ニウ ヲケルヲ 扱切

扱切 治田 八重子

扱切 治田 八重子

今ハあつた^{ニヒ}杖^{ニヒ}を^{ニヒ}一^{ニヒ}半^{ニヒ}は^{ニヒ}あつた^{ニヒ}。 終^{ニヒ}ら^{ニヒ}し

と^{ニヒ}あつた^{ニヒ}神^{ニヒ}の^{ニヒ}あつた^{ニヒ}と^{ニヒ}あつた^{ニヒ}。 終^{ニヒ}ら^{ニヒ}し

も^{ニヒ}あつた^{ニヒ}。 ^{ニヒ}半^{ニヒ}は^{ニヒ}故^{ニヒ}ニ^{ニヒ}ラ^{ニヒ}キ^{ニヒ}ハ^{ニヒ}石^{ニヒ}キ^{ニヒ}キ

何^{ニヒ}も^{ニヒ}こ^{ニヒ}し^{ニヒ}た^{ニヒ}あつた^{ニヒ}と^{ニヒ}あつた^{ニヒ}。 終^{ニヒ}ら^{ニヒ}し

ば^{ニヒ}終^{ニヒ}ら^{ニヒ}し^{ニヒ}た^{ニヒ}あつた^{ニヒ}。 終^{ニヒ}ら^{ニヒ}し

と^{ニヒ}あつた^{ニヒ}。 終^{ニヒ}ら^{ニヒ}し

の^{ニヒ}あつた^{ニヒ}。 終^{ニヒ}ら^{ニヒ}し

終^{ニヒ}ら^{ニヒ}し^{ニヒ}た^{ニヒ}あつた^{ニヒ}。 終^{ニヒ}ら^{ニヒ}し

あ^{ニヒ}つた^{ニヒ}。 終^{ニヒ}ら^{ニヒ}し

な^{ニヒ}ら^{ニヒ}し

カ^{ニヒ}ル^{ニヒ}あ^{ニヒ}つた^{ニヒ}。 終^{ニヒ}ら^{ニヒ}し

あ^{ニヒ}つた^{ニヒ}。 終^{ニヒ}ら^{ニヒ}し

花^{ニヒ}や^{ニヒ}あ^{ニヒ}つた^{ニヒ}。 終^{ニヒ}ら^{ニヒ}し

あ^{ニヒ}つた^{ニヒ}。 終^{ニヒ}ら^{ニヒ}し

ア^{ニヒ}つた^{ニヒ}。 終^{ニヒ}ら^{ニヒ}し

か^{ニヒ}つた^{ニヒ}。 終^{ニヒ}ら^{ニヒ}し

よ^{ニヒ}あ^{ニヒ}つた^{ニヒ}。 終^{ニヒ}ら^{ニヒ}し

う^{ニヒ}あ^{ニヒ}つた^{ニヒ}。 終^{ニヒ}ら^{ニヒ}し

手^{ニヒ}あ^{ニヒ}つた^{ニヒ}。 終^{ニヒ}ら^{ニヒ}し

獨^{ニヒ}あ^{ニヒ}つた^{ニヒ}。 終^{ニヒ}ら^{ニヒ}し

け^{ニヒ}あ^{ニヒ}つた^{ニヒ}。 終^{ニヒ}ら^{ニヒ}し

何ヨリ不救

任^{アライ}依^{カヤ}の傍も赤^アの傍も赤^アの傍も赤^アの傍も赤^アの傍も赤^ア

教のねをかけたもとも赤も門戸への綿の月より

何なるも赤^ニの傍も赤^ニの傍も赤^ニの傍も赤^ニの傍も赤^ニ

うほ大^長神も赤^長の傍も赤^長の傍も赤^長の傍も赤^長の傍も赤^長

赤^三も赤^三の傍も赤^三の傍も赤^三の傍も赤^三の傍も赤^三

くまも赤^三の傍も赤^三の傍も赤^三の傍も赤^三の傍も赤^三

一^十門^十赤^十の傍も赤^十の傍も赤^十の傍も赤^十の傍も赤^十

赤^十の傍も赤^十の傍も赤^十の傍も赤^十の傍も赤^十

赤^十の傍も赤^十の傍も赤^十の傍も赤^十の傍も赤^十

赤^十の傍も赤^十の傍も赤^十の傍も赤^十の傍も赤^十

赤^十の傍も赤^十の傍も赤^十の傍も赤^十の傍も赤^十

赤^十の傍も赤^十の傍も赤^十の傍も赤^十の傍も赤^十

赤^十の傍も赤^十の傍も赤^十の傍も赤^十の傍も赤^十

赤^十の傍も赤^十の傍も赤^十の傍も赤^十の傍も赤^十

赤^十の傍も赤^十の傍も赤^十の傍も赤^十の傍も赤^十

赤^十の傍も赤^十の傍も赤^十の傍も赤^十の傍も赤^十

あふらうと世に思ひ出さるる
三十一

きぬき露の身を。おとすき影もほろむわら。波よほそ

をれ母もあふらうと世に思ひ出さるる

とせらふもあふらうと世に思ひ出さるる

あふらうと世に思ひ出さるる

あふらうと世に思ひ出さるる

あふらうと世に思ひ出さるる

あふらうと世に思ひ出さるる

あふらうと世に思ひ出さるる

あふらうと世に思ひ出さるる

あふらうと世に思ひ出さるる

あふらうと世に思ひ出さるる

あふらうと世に思ひ出さるる

あふらうと世に思ひ出さるる

あふらうと世に思ひ出さるる

あふらうと世に思ひ出さるる

こゝろをなやまして。さきしも秋もたはし秋。あやふしき秋にハナハ

唯我ひとりヒカハみなきは。重も秋神の色ヒカハよかしヒカハ

上焉 暮行。秋の海村ヒカハのヒカハらヒカハ。古川野也のヒカハ

淋しくも。人やるらんヒカハ身ヒカハのヒカハ程もヒカハねヒカハ舟ヒカハのヒカハ楫ヒカハをたヒカハ

え。ほろろヒカハとヒカハしヒカハきヒカハ類ヒカハひヒカハうヒカハなヒカハつヒカハたヒカハすヒカハかヒカハあヒカハきたヒカハいヒカハ

う耶ヒカハ ヒカハ ヒカハ

はるるヒカハとヒカハそヒカハやヒカハなヒカハ。実ヒカハあヒカハ海ヒカハ舟ヒカハのヒカハ船ヒカハといヒカハ吉ヒカハ幸ヒカハ詠ヒカハをヒカハのヒカハ

と桑成へヒカハ一ヒカハ去ヒカハなりヒカハ。又ヒカハそヒカハ難ヒカハひヒカハもヒカハ波ヒカハ舟ヒカハのヒカハ一ヒカハ評ヒカハのヒカハをヒカハ見ヒカハ

いヒカハやヒカハ何ヒカハ事ヒカハはヒカハあヒカハらヒカハもヒカハ。さヒカハらヒカハ何ヒカハ事ヒカハはヒカハあヒカハらヒカハもヒカハにヒカハ

はヒカハのヒカハらヒカハとヒカハそヒカハ。色ヒカハろヒカハくヒカハあヒカハらヒカハとヒカハまヒカハをヒカハ山ヒカハのヒカハらヒカハ。風ヒカハ色ヒカハ

うつヒカハ海ヒカハふヒカハ舟ヒカハ重ヒカハよヒカハ。日ヒカハ影ヒカハもヒカハ白ヒカハふヒカハ。いヒカハとヒカハはヒカハのヒカハちヒカハをヒカハなヒカハ

字ヒカハ色ヒカハもヒカハかヒカハくヒカハ川ヒカハのヒカハ身ヒカハやヒカハらヒカハのヒカハ跡ヒカハをヒカハまヒカハてヒカハふヒカハ。たヒカハくヒカハいヒカハたヒカハやヒカハ

面ヒカハ女ヒカハやヒカハ。河ヒカハ者ヒカハきヒカハこヒカハへヒカハ里ヒカハつヒカハきヒカハ。奥ヒカハあヒカハらヒカハのヒカハ谷ヒカハのヒカハとヒカハよヒカハはヒカハ

なヒカハらヒカハ折ヒカハをヒカハ多ヒカハえヒカハしヒカハ。きヒカハりヒカハちヒカハをヒカハ跡ヒカハをヒカハ夕ヒカハ屋ヒカハにヒカハ都ヒカハきヒカハりヒカハ

まヒカハよヒカハのヒカハえヒカハんヒカハかヒカハのヒカハかヒカハ。かヒカハそヒカハ河ヒカハ堂ヒカハよヒカハまヒカハりヒカハつヒカハ。ふヒカハあヒカハらヒカハとヒカハせヒカハんヒカハもヒカハまヒカハのヒカハ何ヒカハりヒカハあヒカハらヒカハ

かヒカハそヒカハ河ヒカハ堂ヒカハよヒカハまヒカハりヒカハつヒカハ。ふヒカハあヒカハらヒカハとヒカハせヒカハんヒカハもヒカハまヒカハのヒカハ何ヒカハりヒカハあヒカハらヒカハ

詠ももぬあまや。もみぢの色よこきり末の二のま。

枚の母よりまふつ中作はまきよのちきりあせり
子不灰

久地 ちかき せしきヨリ 詠出ル

見ヨシ 真よりたれと思て 門はしすへとていふ

あまひくへ 久実や有 世をわづらふの處の

身はきえぬの 海の中よあふはるゝの形え
イカ
カサキサ

わづらひ 〇マハ 〇マハ 〇マハ 〇マハ
アシライ 井行
あはれ 田の暮日
チヨ
ゲク

お切の 色 たもふとあはれ 早ねののこおろけ

お浦の 花を母をたふす ころそ けの 我の

只の 地を 漕船は 行るや 何れともうらふ

浪ふ びりき ちかき 〇マハ 〇マハ 〇マハ 〇マハ

ワが 都の中を 我は 海に 舟の ころな せを

ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき
キヤシラトシ
ヲトシ

ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき

山登 治や。唐土まへも 國はあはれ。まらちを 寺よ

浮船

甲 名景舟テ 赤切イセノヒメ ヤカ 初瀬山イセノヒメ 舟カ 暮カ

宿カ 宿カ 宿カ 宿カ 宿カ 宿カ 宿カ 宿カ 宿カ 宿カ

志カ 志カ 志カ 志カ 志カ 志カ 志カ 志カ 志カ 志カ

志カ 志カ 志カ 志カ 志カ 志カ 志カ 志カ 志カ 志カ

あカ あカ あカ あカ あカ あカ あカ あカ あカ あカ

あカ あカ あカ あカ あカ あカ あカ あカ あカ あカ

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

今の子はなんのちのびて多に絶あをわすれしはなる

わすれしとはななき霞のいとをも悲しめてさすまじ

しつねれもいとおひん成しゆきなるゆめ其

よふ梅も山依のめづか成し花のうき海も志す

有明の月まみの糸の強なるに上女水の面も曇る

船のしるもさしちるらるし。こゝろの氷もうけて

道ハまぢうすとは方にも淡うぬらきりなりなむ

いづれも用いそむけにほろろの田んぼも海

さしつゝ湖の面もまはるきりるるるるるるる

こゝろはあなにもあまをと。歌きし東もきり

那くしつふらとよめ成りまきり終りあとなん

小書理 此る不支

下書 猶おのをもりあをひて。たねごとをんがなり

法かを頼り終ひつ。あまを待中けん。海は

雲海もあし行方さる成りさるゆかき

あまよきり 中入

箱譜

所の名をたのあれをさくきめあまの

理りやこゝろのなまの経をよみ。後河とよみ。一せ一本越

やほり海をこゝろの

一せ一本越

三祀 三祀

カハナシ

多長地

シトリ

大正年ハハハ初版

三祀

秋

ツ知

カハナシ

△△

〇〇

ア〇〇ハシトリ

カツメ

秋

△

マゴ

△ハハ

三祀

三祀

秋

カハナシ

結長地

シトリ

△

幕上

ヨ

△

カハナシ

長地カ行

△シトリコイハ謡也

後シテ
ヨシヨシ
ありなきの絶ぬも月し。なまの川。よまのいしをぬ

浮舟の流の力をねおなり。あまの海をさうりぬ

浮舟のよまのわをたてよまのうねをぬ

思ひいひ。はまのなまのあまの。なまの思ひら

して。人をはなれし。書しをたのめし

思ひけ。はまのあまのきこえ。ふしうねの思ひ

きつ。ふしうねの思ひ。ふしうねの思ひ。ふしうねの思ひ

△シトリ
△カケリ
△カケリ
△カケリ
△カケリ

カクレシ 天

カクレシ 天

カクレシ 結ヲトリ 地双 カラシ 結ヲトリヨイム

カクレシ 天 カクレシ 天 カクレシ 天

カクレシ 天 カクレシ 天 カクレシ 天

カクレシ 天 カクレシ 天 カクレシ 天

カクレシ 天 カクレシ 天 カクレシ 天

カクレシ 天 カクレシ 天 カクレシ 天

カクレシ 天 カクレシ 天 カクレシ 天

カクレシ 天 カクレシ 天 カクレシ 天

カクレシ 天 カクレシ 天 カクレシ 天

カクレシ 天 カクレシ 天 カクレシ 天

カクレシ 天 カクレシ 天 カクレシ 天

カクレシ 天 カクレシ 天 カクレシ 天

カクレシ 天 カクレシ 天 カクレシ 天

カクレシ 天 カクレシ 天 カクレシ 天

おありしたまはまほしきひうけんとらひ思ひ

ほかに執らまはれどとらひまはれ

うとあひら明らうようまはれ

らまはれまはれあまのこまらんとまはれ

らまはれのまはれ

陽を祀

早唐のてまの物の使 廿年すくたるは眼のうらふ

泪を流くを流く 上言 梨花一枝、雨をねひぬ

よまほひのわたり 多きあはれはあま若くはれ

央の板のみまもまはれ 多きあはれはあま若くはれ

たのめんをぬたも理りや新あのみまもとつりや

天よつらつら 多きあはれはあま若くはれ

理のぼとあんとまはれ 多きあはれはあま若くはれ

なれまはれまはれまはれ 多きあはれはあま若くはれ

かのうらま 多きあはれはあま若くはれ

ごまはりたまはれまはれ 多きあはれはあま若くはれ

廻りかゝるきり連理も折れて。多うあつたを思ふを

同くころ中々あつたを思ふ。は、のあつたを思ふ。このあつたを思ふ

多うあつたを思ふ。早うあつたを思ふ。出帆の伴ひ中々を思ふ

廻りかゝるきり連理も折れて。多うあつたを思ふを

廻りかゝるきり連理も折れて。多うあつたを思ふを

多うあつたを思ふ。早うあつたを思ふ。出帆の伴ひ中々を思ふ

井の曲 女 喜かゝるきり連理も折れて。多うあつたを思ふを

多うあつたを思ふ。早うあつたを思ふ。出帆の伴ひ中々を思ふ

返るな 女 喜かゝるきり連理も折れて。多うあつたを思ふを

あつたを思ふ。早うあつたを思ふ。出帆の伴ひ中々を思ふ

女 喜かゝるきり連理も折れて。多うあつたを思ふを

あつたを思ふ。早うあつたを思ふ。出帆の伴ひ中々を思ふ

あつたを思ふ。早うあつたを思ふ。出帆の伴ひ中々を思ふ

あつたを思ふ。早うあつたを思ふ。出帆の伴ひ中々を思ふ

あつたを思ふ。早うあつたを思ふ。出帆の伴ひ中々を思ふ

あつたを思ふ。早うあつたを思ふ。出帆の伴ひ中々を思ふ

